

は、断酒会やAA家族会(ニューヨーク)での気づきがあったといいます。岡八郎氏は60歳にして、「ワシは酒を止める。ワシは酒に対して無力や。ワシはもう1回舞台に立ちたい」それが、断酒をやり直すきっかけになったという。裕子さん自身も、自分を見つめ直す機会を断酒会で得たという。許すことの難しさ、自分を大切にすることも忘れていた、自分の人生を自分で生きること、人に対する決めつけはしない、一人一人を尊重することから始め、「ありがとう」「ご苦労様」と言えたとき、自分は変わったという。謙虚さを知り感謝をしたら、周りには助けてくれる人がいることに感謝できるという。傷つきながら、それでいて人を愛することが出来るようになるという言葉、そして姿に胸を打たれました。体験発表の後、全国大会、ブロック大会アピール。朋友断酒会紹介、祝辞、閉会の挨拶、全断連の歌、連鎖握手、万歳三唱で幕を閉じた。(記・事務局青木)



平成29年度 第1回 あゆの会研修会開催

平成29年度第1回あゆの会の研修会が6月11日(日)滋賀県婦人会館で14時30分から開催されました。社会学博士、精神保健福祉士として活躍されておられる西川京子先生をお招きし、青木厚子世話人代表の開会の言葉で始まり、二人の家族の体験発表の後、西川京子先生に「アルコール依存症患者の家族の苦悩と回復」というテーマでお話をいただきました。アルコール問題を抱えた家族が陥っている状態、家族の力でコントロールしてやめさせるしかないと判断し、本人を干渉、コントロールし、飲酒問題が起きると変わって後始末し、その上で本人に怒りや恨みを強めて攻撃するがアルコール問題は全く解決しない。そんな問題から抜け出るためにも、アルコール依存症とその回復、家族が受けている影響を専門職から学び、本人や家族の自助グループに参加して理解をする。又断酒後の家族関係では断酒がスタートであってゴールではない、家族が幸せになることが、つらい思いをさせた子供達への償いの一つ、家族がどういう方向に進んでいけばいいか教えていただきました。その後の質疑応答では体験談を語ってくれた2人や質問した家族一人一人に丁寧にアドバイスされました。最後に西浦律子世話人の閉会の言葉で終了しました。参加人数家族24名、本人(総会が終わってから)4名でした。(記・柏本敬子)